

当たり前

狭山市立教育センター

所長 澤田 剛

高校生の息子の入学式に出席するために勤務校の入学式を欠席した職員について、ネット上での論争は一段落しているようですが、次の2文を比べてください。

(1)「職務を優先するのが『当たり前』だよ」

(2)「今どきそのくらい『当たり前』だよ」

(1)の「当たり前」は、この職員を非難しており、(2)では、弁護しています。

辞書によれば「当たり前」には、2通りの意味があります。「①わかりきった、言うまでもないこと。当然。②なんの変ったところもないこと。普通。」(岩波国語辞典より)

(1)は①「当然」の意味で、(2)は②「普通」の意味で使われているわけです。

年度当初に示されている「経営方針」等に、「当たり前のことが当たり前ができるように」という内容が示されている園・校が多くなっています。それだけ「当たり前」のことができない子が増えているということなのでしょう。関係者の皆様の御苦勞が思われるところですが、この「当たり前」は、前記①「当然」でしょうか、②「普通」でしょうか。

「当たり前(=当然やるべきこと)が当たり前(=普通)にできる」と受け止めたいと、私は思いますが、いかがでしょうか。

さて、「当たり前」の語源について、次のような説があります。

分配される分を「分け前」、取り分を「取り前」と言うのと同様に、漁や狩りなどの共同作業で、一人当たりの取り分を「当たり前」と言い、作業に携わった者がそれを受け取るのは当然の権利であることから「当然」の意味を持つようになったという説です。

小中学校も幼稚園も、子供や職員が一人一人それぞれの務めを果たし、「当たり前」(=収穫としての学力、体力など)を受け取れる場でありたいものです。